

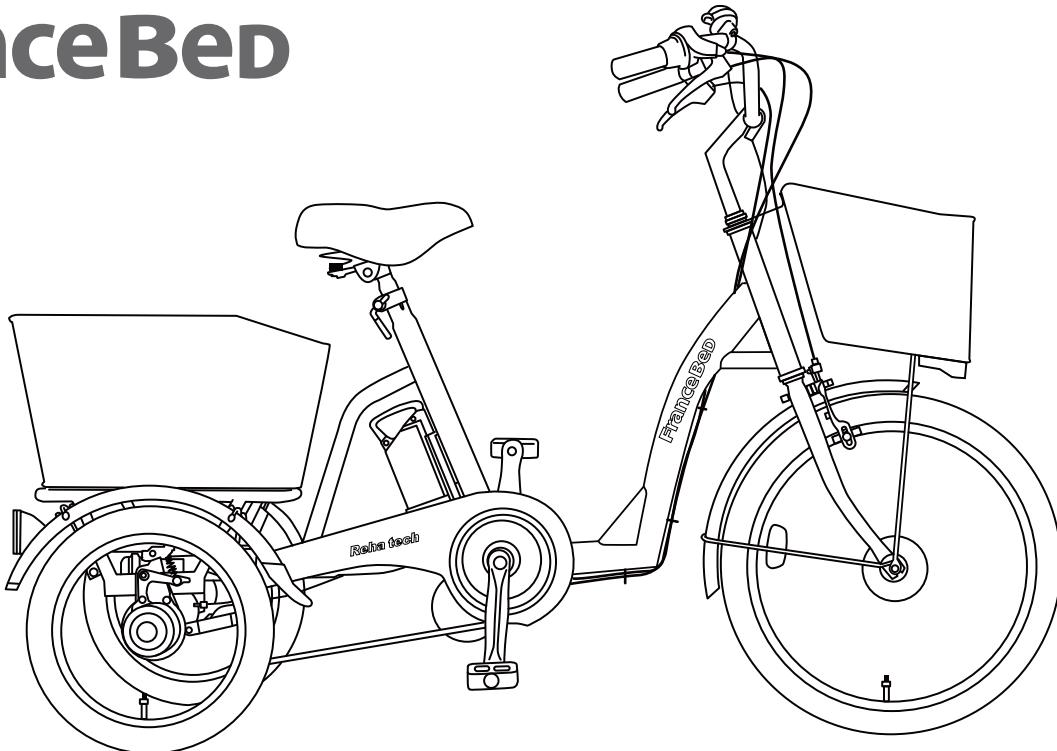
自転車を安全で快適にご使用いただくために！

取扱説明書 電動アシスト三輪自転車 ASU-3WT3

このたびは当社の製品をお買い上げいただきまして、
ありがとうございます。

311903-8901

France Bed



警 告 使用上の注意

- 公道で使用する前に、空き地などの安全な場所で充分練習してください。
- その他安全上の注意(6~12頁)を守ってください。

本書および保証書について

- お求めになった自転車に当てはまらないイラスト、説明内容も含まれていますので、ご容赦ください。
- 必ずお買い求めのお店で防犯登録をしてもらってください。
- 駐車時は必ずカギをかけてください。
- 保証書は「お買い上げ日・販売店名・製造番号」などの記入を確かめて、お店からお受け取りください。「車体No」の記入が洩れている場合は自分で記入しておいてください。
- 本書を読み終えた後は、大切に保管し、必要に応じてご活用ください。
- この三輪自転車は、散歩、買い物など、日常生活用として設計されています。新聞配達など業務用としてご使用にならないでください。

※電動アシストユニットの取扱いについては、
別冊の電動アシストユニット取扱説明書をお読みの上、
正しく安全にお使い下さい。

警告表示

警告表示は危険度・重要度の程度に応じて次の区分で表示しています。
これらを守らないと事故につながったり、ケガをしたり、自転車がこわれるなどのおそれがあります。

表示の意味



警 告

この表示を無視して誤った取り扱いをすると、人が生命に関わるケガを負う可能性が想定される内容を示します。



注 意

この表示を無視して誤った取り扱いをすると、人が傷害を負う可能性が想定される内容および物的損害のみの発生が想定される内容を示します。



禁 止

この記号は、禁止の行為であることを告げるものです。
(～しないでください)



強 制

この記号は、行為を強制したり指示する内容を告げるものです。
(～してください)



参照いただく項目を示します。



警 告

- 安全快適にご使用いただくために、必ずこの「取扱説明書」と添付の保証書をよく読み、理解してからお使いください。
- まちがった取り扱いや調整は事故につながる危険があります。警告、注意、禁止、強制事項を必ず守ってください。
- 乗るまえの「日常点検」と、「初回点検・定期点検」を必ず実施してください。
- お子様は使用できません。
- この自転車には幼児用座席の取り付けはできません。
- バスケットに幼児を乗せてはいけません。
- この自転車を他人に譲るときには、本書及び購入時に添付されていた書類一式を必ずいつしょにお渡しください。
- 取り扱い方がわからないときは、お買い求めのお店にご相談ください。

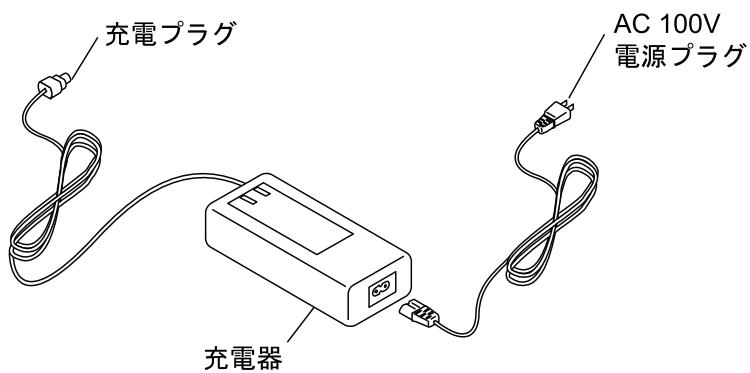
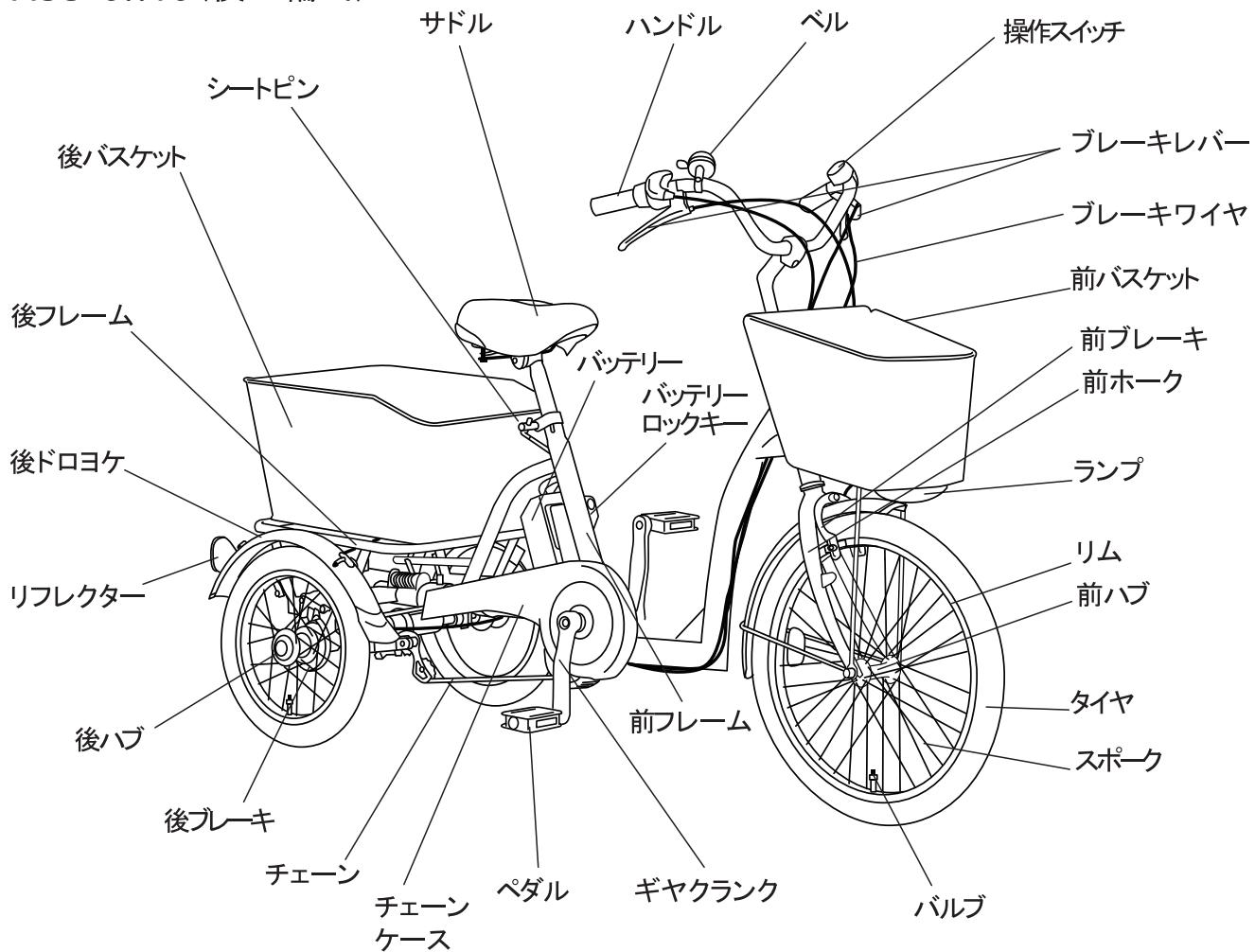
【もくじ】

■ 警告表示	1	■ 点検方法	13～16
■ 各部のなまえ	2	■ 各部の調整方法	17～20
■ 正しい使用条件	3	■ 正しい取り扱い	21～22
■ 三輪車の構造と特徴	4～5	■ お手入れと保管	23
■ 安全上のご注意	6～12	■ 交通ルールを守りましょう	24～25

各部のなまえ

自転車の図は代表例です

ASU-3WT3(後二輪式)



正しい使用条件

【標準常用速度】 後2輪式:8~12km/h

※ この標準常用速度は、この自転車を設計するうえで想定した標準的な速度です。

⚠ 警告: 高速での事故・転倒は大ケガのおそれがあります。スピードはいつもひかえめにしてください。

【標準適用体格】

- サドルに腰をおろしペダルを下にさげて足を乗せたとき、ひざに余裕があるように調整できること。
初心者の方はサドルに腰をおろしたとき、両足がべったり地面につくこと。



両足が地面にとどく

- ブレーキレバーを余裕をもってにぎることができること。



【乗員体重】 65kg

※ この自転車は乗員体重を65kgで基本設計いたしております。

従って、著しくオーバーした体重の方が常用された場合は、消耗度合、劣化度合が大きくなりますので、予めご了承のうえ、御使用願います。

【乗せられる荷物の大きさと重さ】

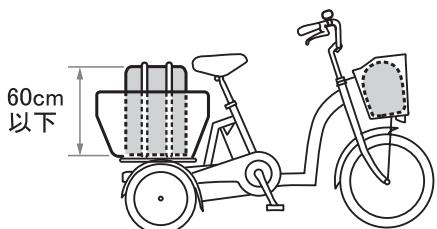
ASU-3WT3(後二輪式)

	前バスケット	後バスケット
最大積載量	3kgまで	17kgまで
積載物の大きさの限度	高さ・前後・左右共、バスケットからはみ出さないこと。	高さは60cm以下で、前後・左右からはみ出さないこと。



●荷物の積み過ぎは走行安定性を著しく低下させ危険です。また、はみ出した荷物は歩行者や自動車などに接触するおそれがあり、危険です。最大積載重量及び積載物の大きさ限度を越えないようしてください。

- 荷物以外(子供、犬など)は乗せないでください。
- 三輪車には幼児用座席(チャイルドシート)は取り付けできません。



三輪車の構造と特徴

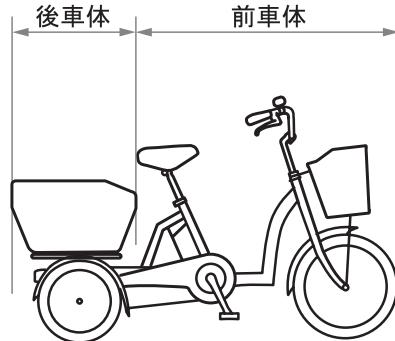
大人三輪車は普通自転車や幼児用三輪車とは構造や走行性が異なりますので、注意してご使用ください。

ASU-3WT3

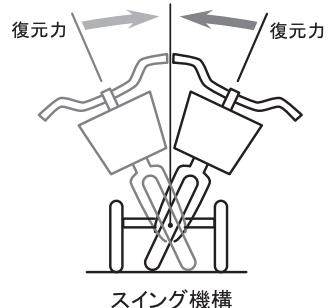
(後二輪式)

●構造

- この三輪車は「前車体」と「後車体」で構成されており、スイング機構を装備しています。この機構により、前車体は後車体に対して、ある程度柔軟に左右に傾き、また傾いても元に戻ろうとする復元力が働きます。



- 乗員が体を左(右)に傾けると、前車体も左(右)に傾きますが、バネの力により元に戻ろうとする復元力が働きます。

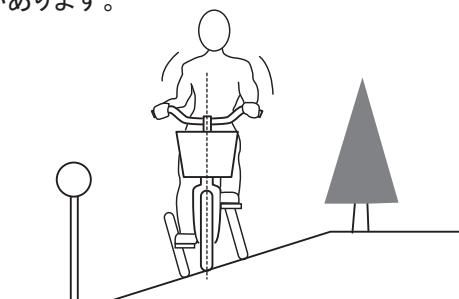


傾斜や凹凸のある路面での三輪車の特性

三輪車は次の例に示すように、特に路面の傾斜や凹凸の影響を受けて車体が傾き、普通自転車に比べて運転しづらくなりますので、充分注意してご使用ください。

トーションバーの自立する力が傾斜した路面では抵抗に感じる場合があります。
充分注意してご使用ください。

- 路面の傾斜により後車体が傾きます。しかし、スイング機構があるので、乗員がバランスを取ることにより、ある程度、前車体を立て直しながら乗車することができます。



⚠ 警告

- 三輪車は路面の傾斜や凹凸の影響を受けやすく、車体が傾いたりハンドルを取られやすくなり、普通自転車に比べて運転しにくくなります。
- 路面の傾斜や凹凸が大きい場合は転倒する危険がありますので、その場合は三輪車から降りて押して歩いてください。

電動アシスト自転車のしくみと特長

● 軽い力で運転することができます。

ペダルを踏み込むと、その力をセンサが検出します。

ペダルを踏む力に応じてアシストユニットの補助力（電動補助力）が働き、軽い力で運転することができます。上り坂、向かい風、荷物を載せているときに、楽に運転することができます。

● 快適な速度で走行できます。

走行速度が上がるにつれ、ペダルを踏む力に対する電動補助力の比率が減少していき、ノーマルモード、およびターボモードの場合は24km/h以上、エコモードの場合は15 km/h以上では電動補助力が0になります。そのため、電動補助力が原因で速くなりすぎることはありません。

ペダルを踏まないとき、逆回転させているときは、電動補助力が働きません。

● 通常の自転車としても走行できます。

電動アシストを「OFF」にしておくと、通常の自転車と同じようにご使用いただけます。バッテリが切れても、通常どおりにご使用いただけます。



安全上のご注意

お使いになる人や他人への危害、財産の損害と自転車がこわれることを未然に防止するために、必ずお守りください。

⚠ 警告(三輪車の使用上の注意)

- 三輪車は一般的な自転車と構造、機能が異なっています。自転車に乗れる方でも乗車感が一般的な自転車と違い操縦性が悪く、乗り方によっては転倒するおそれもあるので次の点に特に注意してください。

🚫 禁止 乗り方を充分習得するまでは公道では乗らない。

練習は空き地などの安全な場所で行ってください。

⚠ 注意 スピードは次の通りとしてください。

●後二輪式 8~12km/h以下

🚫 禁止 歩道の段差や溝・凹凸の激しい路面を走らない

車体が傾き、ハンドルをとられて転倒し、事故のおそれがあります。
三輪車から降りて、後輪に足をひかれないように注意しながら押してください。

🚫 禁止 バスケットに幼児を乗せない

幼児の手足を車輪にはさまれたり、幼児が放り出されたりしてけがの危険があります。

🚫 禁止 ジグザグ走行はしない

後車輪の片側が浮き上がって転倒したり、ブレーキが効かなかったりして事故のおそれがあります。

⚠ 警告 次のようなときはスピードを出さない。

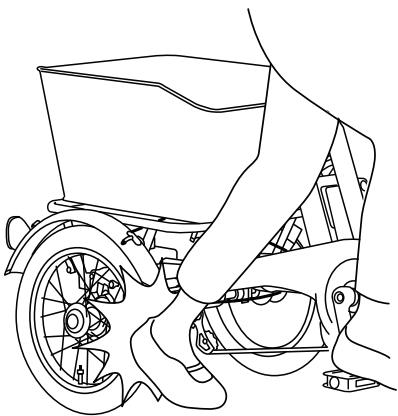
- 片側に傾いている道ではハンドルをとられやすい。
- 走行中に急旋回(小回り)すると、後車輪の片側が浮き上がり転倒する危険があります。
- 下り坂およびカーブ

5km/h以下
(歩く程度)の速さで走るか、降りて押す。

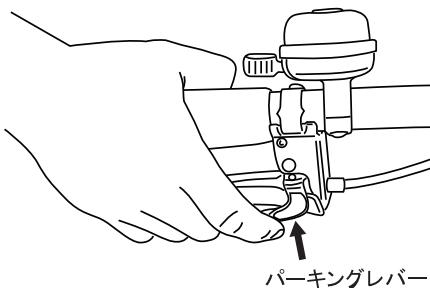


注意  後二輪式は後の車体幅が広いので次のことにも充分注意して使用して下さい。

- 押して歩くとき、またはペダルに片足を乗せてけり乗りすると後ドロヨケが足のかかとに当たってけがのおそれがあります。

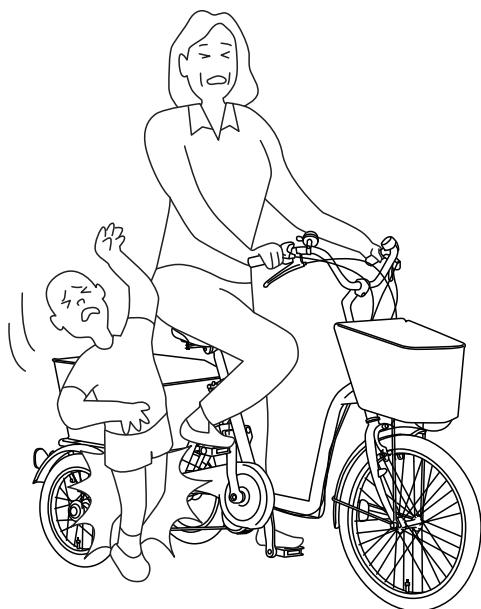


注意  駐輪時はパーキングストッパーを必ずかける。



- スタンドがないので、ひとりでに動き出して事故のおそれがあります。
(パーキングストッパーの使用方法  P.21)

禁止  けり乗り禁止
禁止  後車輪が、歩道の段差や、歩行者とぶつかり事故のおそれがあります。

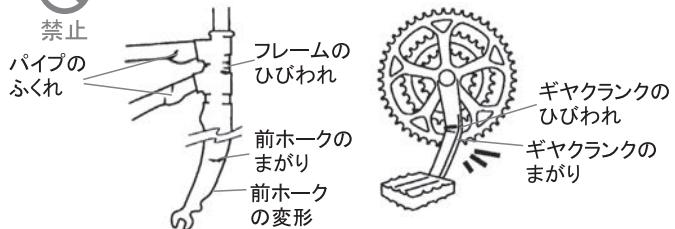


警告(危険です、乗る前に必ず点検してください！)

異常を発見したらそのまま乗らずに、必ずお店に修理を依頼してください。

フレーム・前ホークやギヤクランク、ペダルなどの部品に変形やヒビ割れはないか

 絶対曲げ戻して修理をしない。



走行中にこわれて事故・けがをおこすおそれがあり危険です。

前輪の固定は十分か

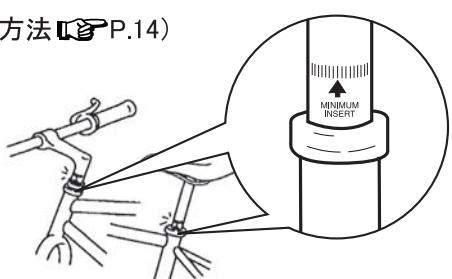
(点検方法  P.15)



走行中に外れて事故・けがをおこすおそれがあり危険です。

ハンドルやサドルのポストは限界標識がかくれるまで差し込まれているか

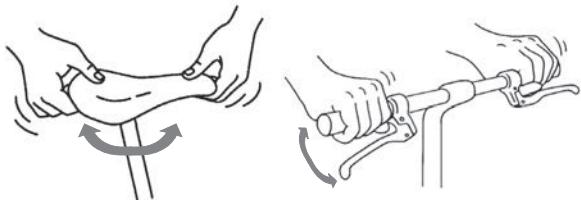
(点検方法  P.14)



ハンドルや、サドルのポストの折れや抜けにより事故・けがのおそれがあります。

ハンドル・サドルの固定は十分か

(点検方法  P.14)



操縦できなくなり、事故・けがのおそれがあります。

ブレーキはよくきくか

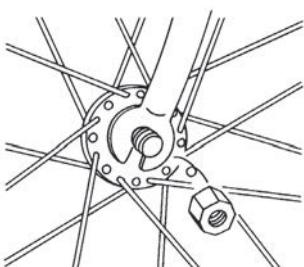
(点検方法  P.14)



止まれずに衝突して事故・けがのおそれがあります。

ネジがゆるんでいるところはないか

(点検方法  P.16)



ゆるんでいるところがこわれて事故・けがのおそれがあります。



警告(危険です、危ない乗り方をしないでください！)

乱暴な乗り方はしない



階段や縁石の乗り降り
アクロバット走行など
禁止



自転車がこわれて事故・けがのおそれがあります。

夜間や暗いところでは無灯火で乗らない



禁止



事故・けがのおそれがあります。



必ず前照灯(ランプ)を装備し、点灯してください。ランプが点かないときは降りて押してください。

2人乗りをしない(道路交通法で禁止)



ハブステップの禁止

禁止

操縦が不安定で転倒したり、自転車がこわれて事故・けがのおそれがあります。

犬を引いて乗らない



禁止



バランスをくずして
転倒し、事故・ケガ
のおそれがあります。

片手運転、手ばなし運転をしない



禁止



危ないときによけたり止まることができず、
事故・けがのおそれがあります。必ず両手で
ハンドルをにぎってください。

ハンドルに物をさげて乗らない



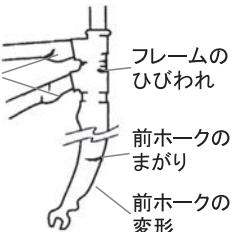
禁止



車輪に物が巻き込まれたり、バランスをくずして転倒し、事故・ケガのおそれがあります。

⚠ 警告(危険です、必ずお守りください！)

変形やひび割れ、ねじのゆるみ、パンクなど異常があるときは乗らない



事故・けがのおそれがあります。

異常を発見したら使用せずに、すぐお店にご相談ください。

改造・分解・ハブステップの装着および指定箇所以外の調整はしない



正しく動かなかつたり部品が外れたりして事故・けがのおそれがあります。

初回点検・定期点検は必ず実施する

(☞ P.13)



長く使っているとネジがゆるんだり調整がズレたりしてきます。必ず実施してください。



ブレーキワイヤーは2年に1回交換

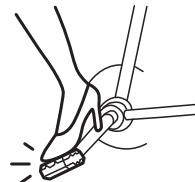
ブレーキに油をつけない

(注油箇所☞ P.23)



ブレーキに油がつくとブレーキがきかなくななり、事故・けがのおそれがあります。

引っかかりやすい服装やすべりやすい靴かかとの高い靴などをはいて乗らない



転倒するおそれがあります。ズボンのそそはセイフティバンドやクリップなどでとめて乗ってください。

本書に記載の取扱方法を守る(☞ P.21)



間違った取り扱いをすると事故・けがのおそれがあります。

⚠ 交通ルールを守る



交通ルールを守らないと事故でけがをしたり、他の人にけがを負わせるおそれがあります。

⚠ 注意(安全のために必ずお守りください！)

走行するとき



- タイヤに充分空気を入れてから乗る。
(空気圧が低いとはやくタイヤが減り、パンクもしやすくペダリングが重くなります)
(適正な空気圧は15ページをご覧ください)

ブレーキをかけるとき



- いつでもブレーキレバーを握るようにして乗る。
- ブレーキは先に後ブレーキをかけてから前後ともブレーキをかける。
(片方だけかけるとスリップして危険です)
- 急ブレーキをかけないでいいように、いつも前方に注意してスピードをひかえめにする。
- 雨天時はブレーキがききにくくなるので、ゆっくり走行する。



カーブを曲がるときは



- カーブで急ブレーキをかけない。
(横すべりして危険です)
- 急旋回しない。
- カーブを曲がるときは手前で充分スピードを落とす。
- カーブを曲がっている間は、ペダリングを止める。
(車体が傾いている側のペダルが下になっていると、ペダルが路面に当たるので危険です)



衝突や転倒したときは



- 必ず点検する。
- 異常を発見したら使用せずにお店に相談する。



初めて乗る方、なれていない方



- 公道で使用する前に空き地などの安全な場所で充分練習してください。



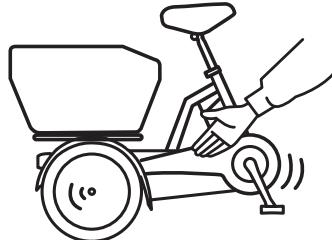
⚠ 注意(安全のために必ずお守りください！)

回転部分には

- 手や足を入れない。子供がそばにいるときは、特に注意する。
(はさまって大ケガをします)
- スポークの間に物を入れたりはさんだりしない。
(車輪にはさまつて転倒してしまいます)



禁止

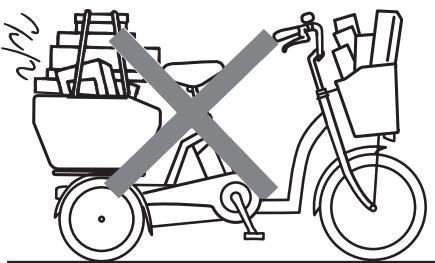


荷物を積むときは

- 荷物は片寄らないように荷ひもでしっかり固定し、歩行者の迷惑にならないようする。
- 荷物でリフレクタがかくれないようにする。
- 後バスケットは高さは60cm以下で、前バスケットは高さ・前後・左右ともバスケットからみださないこと。



禁止



風・雨・雪がひどいときや視界が悪いとき

- ムリに乗らない。自転車から降りて押して歩く。



強制

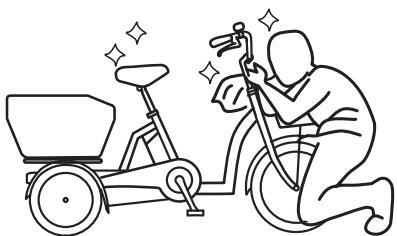


サビを防止し、長持ちさせるために

- 定期的に手入れをする。
(手入れの仕方は23ページをご覧ください)



強制



走行目的以外の使用

- 踏み台など走行目的以外に使わない。
(転倒してけがをするおそれがあります)



禁止



点検方法



乗るまえの「日常点検」と「初回点検」「定期点検」を必ず実施してください。

強制

【初回点検】

- 購入後100km到達時または、2ヶ月以内に点検を受けてください。
初期の内は特にネジがゆるみやすいので、必ず点検を受けてください。

【定期点検】

- 定期点検を受けてください。
安全に長くお使いいただくために必ず定期点検を受けてください。(一年ごと)
長い間使用せず、再び使用するときも点検をお受けください。

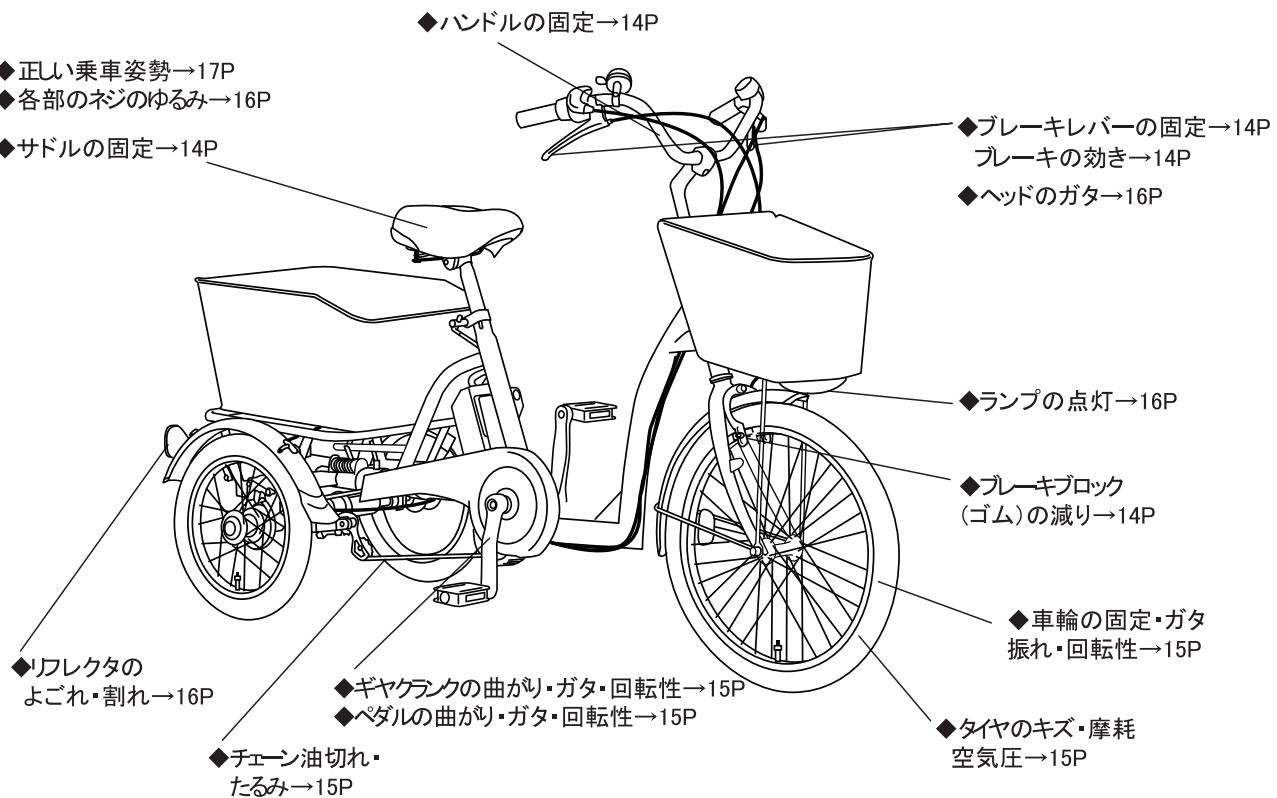
【乗るまえの日常点検】

- 乗るまえに必ず点検し、安全を確かめてから乗ってください。
異常を発見したら、必ず各部の調整方法(☞P.17)により調整するか、それ以外はお店に修理を依頼してください。

各部の点検

自転車の図は代表例です。

記載例	点検箇所	点検方法を説明しているページ
	ハンドルの固定 →	14P



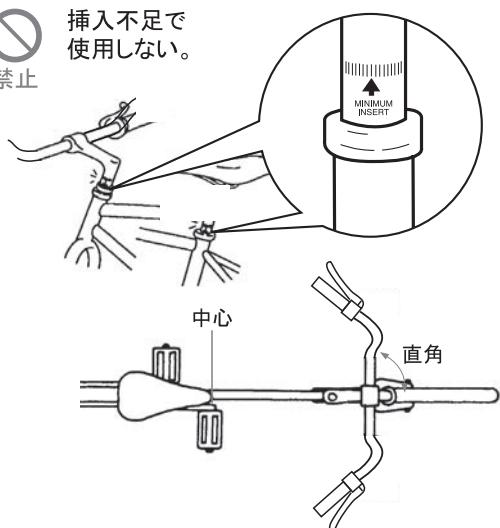
【点検方法】

ハンドル・サドル

●ハンドル・サドルの組付



挿入不足で
使用しない。

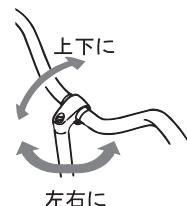


- ※ 限界標識がかくれるまで差し込まれていること。
- ※ ハンドルが前輪に直角に固定されていること。
- ※ サドルがフレーム中心と合っていること。
- ※ サドルにすわってブレーキやハンドルをムリなく操作できること。

(調整方法 P.17~18)

ハンドルの固定

(前輪を足で固定してハンドルを動かしてみる)



※ 力を入れても回らないこと

サドルの固定

(サドルの前後を持って動かしてみる)



※ 力を入れても回らないこと

ブレーキ



ブレーキワイヤは消耗品です。異常がなくても2年に1度は交換してください。

強制

●ブレーキのきき具合

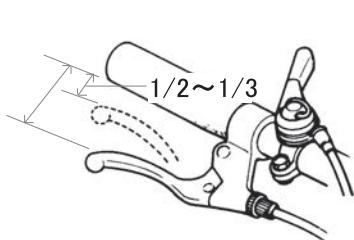
レバーを引いてきき
具合をみる

●レバーの固定

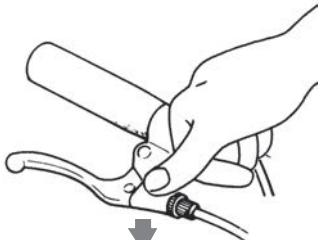
(指で押してみる)

●ワイヤのサビ・切れ

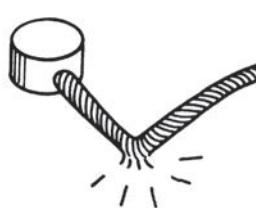
●ブレーキブロック(ゴム) の減り



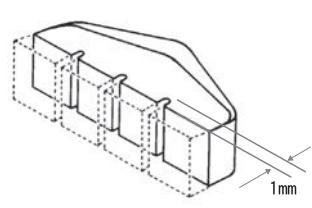
- ※ すきまが1/2~1/3に
なるまでにブレーキが
よくきくこと
- ※ レバーの作動が重くな
いこと



※ ズレ動かないこと



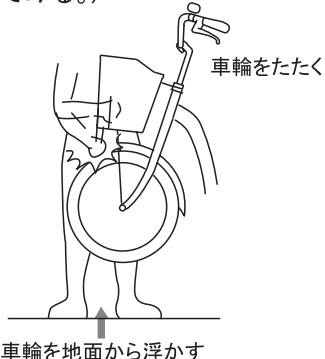
※ サビ・切れ・ほつ
れがないこと



※ 溝の残りが1mm
以上あること

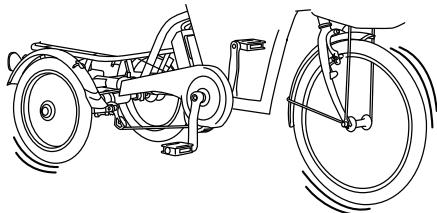
車 輪

- 固定(自転車を持ち上げて車輪を上から強くたたいてみる。)



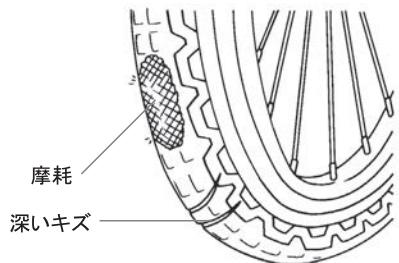
※ 車輪がズレたりガタついたりしないこと。

- 振れ・ガタ・回転性(自転車を持ち上げて回してみる。)



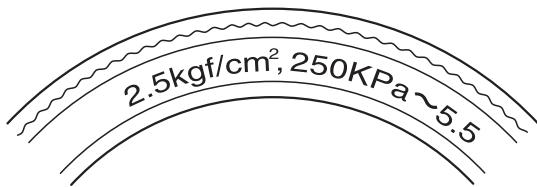
※ スムーズに回転し大きな振れやガタがないこと。

- タイヤのキズ・摩耗



※ コードが見える深いキズがないこと。
※ 接地面の模様が充分残っていること。

- 空気圧

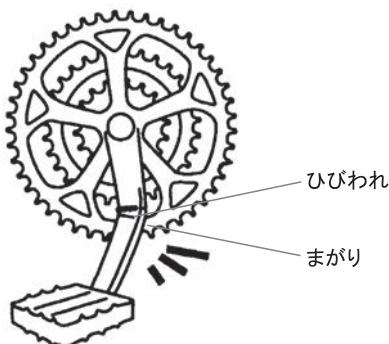


※ 充分空気が入っていて、タイヤに表示してある空気圧になっていること。
(図の数値は表示の例)
(空気補充のしかた P.21)

ギヤクランク・ペダル、チェーン

- ギヤクランク・ペダル

※ クランク・ペダルにガタがなくスムーズに回転すること。
※ ギヤクランクに変形やひび割れがないこと。



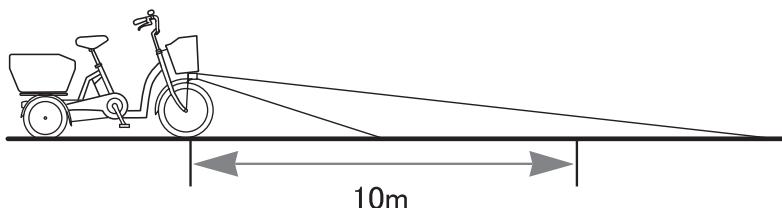
- チェーン

※ 油切れがなく、指で動かしてみたときなめらかにうごくこと。
※ チェーンが大きくなっていること。

ベル・ランプ・リフレクタ

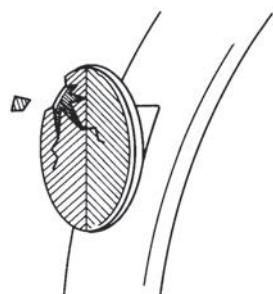
●ランプ

※ 明るく点灯し、10m前
方の路面を照らすこと。



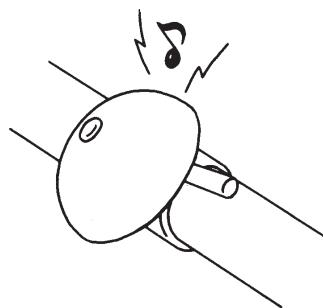
●リフレクタ

※ 必ず装着されてあり、
後からよく見えること
※ レンズのよごれワレが
ないこと。



●ベル

※ ベルが必ず装着されて
あり、よく鳴ること。

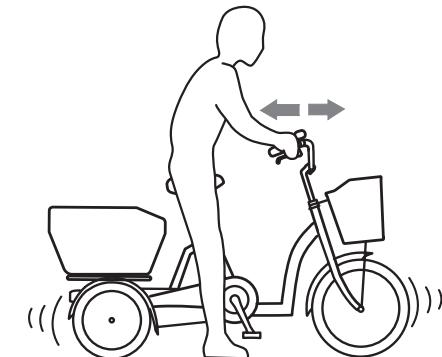


各部のネジのゆるみ

●ヘッド部のゆるみ、ガタ

左右のブレーキレバーをにぎり、 自転車を前後
にゆする。

※ ガタがあればヘッドがゆるんでいたり部品
がこわれています。



●各部のネジのゆるみ

(10cmほど持ち上げて軽く落とす)

※ 変な音がしないこと
変な音がしたらネジがゆるんでいます。



各部の調整方法

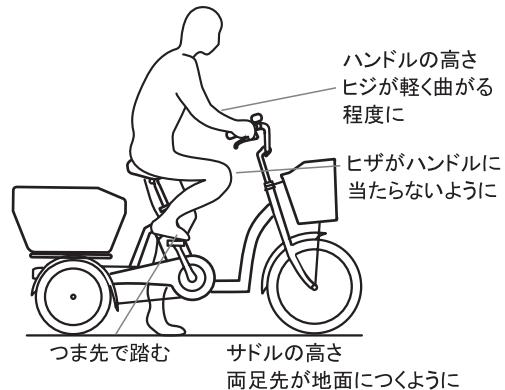
安全を確保するために、各部の調整は注意点を守って確実に行ってください。
これを怠りますと思わぬ事故につながります。ご不明な点がありましたら、お店にご相談ください。また、
調整はお子様にはさせないようにしてください。

⚠ 注意(安全のために必ずお守りください!)

正しい乗車姿勢

サドルに腰をおろし両手をにぎりにおいた状態で、

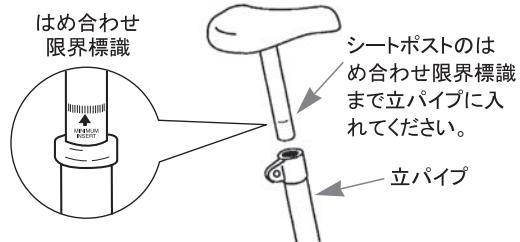
- ①両足先が確実に地面につくこと。
- ②上半身が少し前に傾き、ヒザが軽く曲がること。
- ③ペダルをこいだときヒザがハンドルに当たらず、
安全にハンドルの操縦操作ができること。
- ④円滑にペダルをこぐことができ、ブレーキ、
シフトレバー、ベルなどが安全に操作できること。



サドルの調整のしかた

サドルの高さ

⚠ 警告: 最も高くした場合でも、シートポストのはめ合わせ限界標識が見えなくなるまで挿入してください。限界標識が見えていると、サドル(シートポスト)の折れや抜けにより事故・けがのおそれがあり危険です。

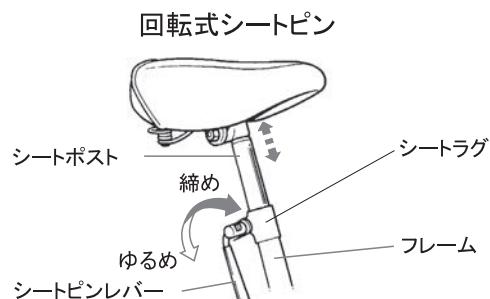


《調整方法》

- ①右側のシートピンレバーをゆるめるとサドルを上下に調整できます。

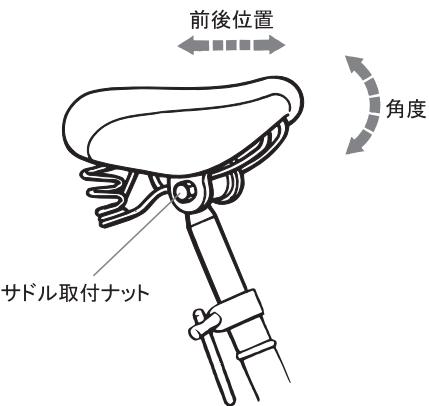
- ②固定するときは、右側のシートピンレバーを締め付けて固定してください。

⚠ 注意: シートピンは左側を回すとシートラグが破損します。絶対に回さないでください。



サドルの前後調整と取付角度

- ◆ ペダルをななめ前のいちばん力を入れやすい位置にして足を乗せたとき、ひざの中心の真下にペダルの中心があるのが最適です。
サドルの取付角度は、サドル上面がほぼ水平になるようにしてください。

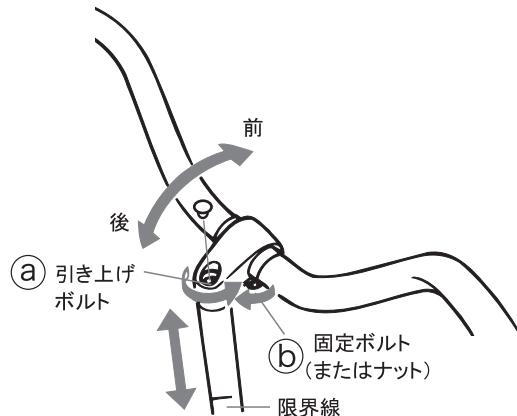


《調整方法》

- ① サドル取付ナットをスパナでゆるめて前後位置と取付角度を調整してください。
- ② 固定するときはスパナでサドル取付ナットを締め付けて固定します。

ハンドルの調整のしかた

⚠ 警告: 最も高くした場合でも、ハンドルシステムのはめ合わせ限界標識が見えなくなるまで挿入してください。限界標識が見えているとハンドルシステムの折れや抜けにより事故・けがのおそれがあり危険です。



《調整方法》

- ① 引き上げボルト④をゆるめるとハンドルを上下に調整できます。
- ② 固定ボルト（またはナット）⑤をゆるめるとハンドルバーの角度を前後に調整できます。
- ③ 固定するときはゆるめた引き上げボルト④および固定ボルト（またはナット）⑤を六角棒スパナ（またはスパナ）で締め付けて固定してください。

◆ 引き上げボルト④をゆるめてもハンドルポストが動かないときは、引き上げボルトの頭を木片などで軽くたたいてください。

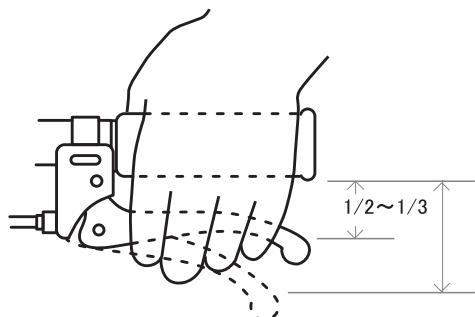
ブレーキ調整のしかた

- ◆ 長い間使っているとブレーキレバーのあそびが大きくなり、ききが悪くなってしまいます。常にブレーキがきくように調整してください。

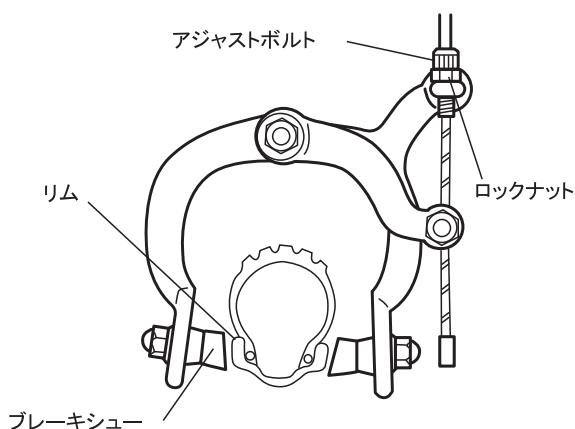
⚠ 警告：ブレーキ各部はこの説明書に記載されているところ以外は、絶対に自分で調整しないでください。

《調整方法》

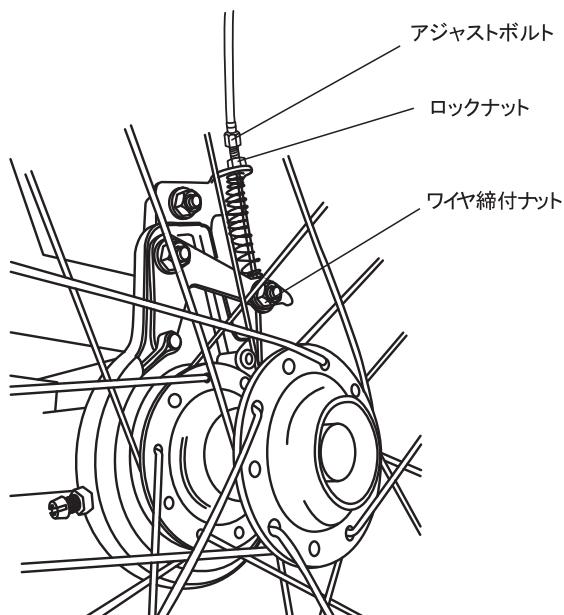
前・後ブレーキ共にアジャストボルトをゆるめると
ブレーキレバーのあそびが少なくなります。
ブレーキレバーを引いてすきまが $1/2 \sim 1/3$ になる
までにブレーキがよくきくように調整してください。
アジャストボルトにロックナットが装着されている
ものは、一度ロックナットをゆるめてからアジャス
トボルトを調整してください。調整後はロックナッ
トを締め付けてください。



前ブレーキ



後ブレーキ



乗った状態で、右側の車輪に
ブレーキがあります。

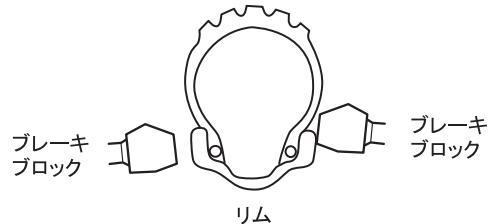
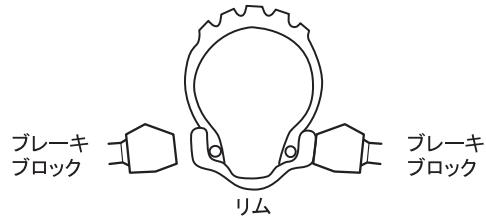


つぎの場合にはお店にご相談ください。

強制

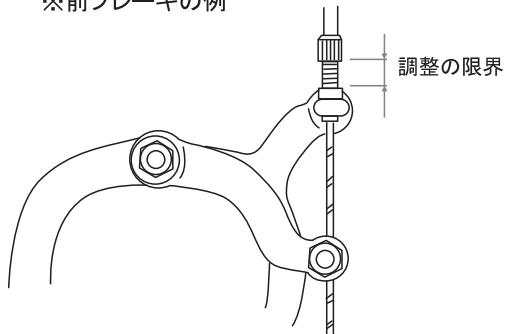
- ◆ ブレーキブロックがリムに当たったままになっているとき

- ◆ ブレーキをかけた状態でブレーキブロックがリムからズレているとき



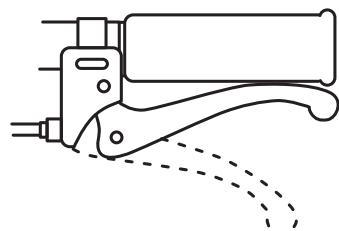
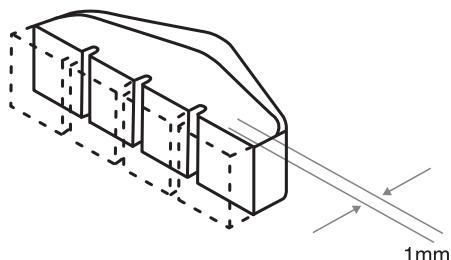
- ◆ アジャストボルトで調整しきれないとき

※前ブレーキの例



- ◆ ブレーキブロック(ゴム)が摩耗して、溝の残りが1mmになったとき

- ◆ ブレーキの効きが悪くなったとき



正しい取り扱い

パーキングブレーキの使いかた

⚠ 注意：駐輪時はパーキングストッパーを必ずかける。

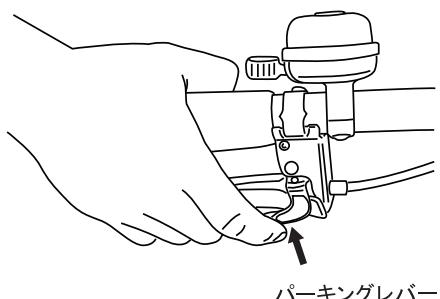
- 三輪車にはスタンドがないので、パーキングストッパーをかけないと、ひとりでに動き出して事故のおそれがあります。

《パーキングストッパーのかけ方》

- ◆右ブレーキレバーを握り、パーキングレバーを押すと、
ブレーキがかかった状態となります。
(パーキングストッパーは右ブレーキレバーに付いています)

- ◆パーキングブレーキの解除は、ブレーキレバーを握
れば自動的に解除されます。

⚠ 注意：パーキングブレーキをかけるときは錠も必ず
かけるようにしてください。いたずらによる
ブレーキ解除のとき役立ちます。



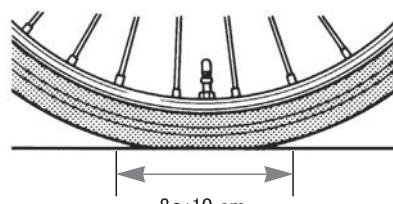
タイヤへの空気補充のしかた

- ◆お買い上げいただきました自転車のバルブの種類に合ったポンプで空気を補充してください。ポンプの口金は製造メーカーによって異なりますので一例を示します。詳しくはお店にご相談ください。

種類	バルブの種類	ポンプ(口金)の種類	空気の入れかた
英式	キャップ プランジャ	口金	・プランジャーにポンプの口金を取り付けて空気を入れ、空気圧を確認する。

空気圧の測定

⚠ 注意：空気圧が少ないと、タイヤの接地面積が広
くなってしまい走行抵抗が増し、ペダリングが重
くなります。また、タイヤの摩耗やパンク、
リムの変形の原因になります。
必ずタイヤに表示している空気圧の範囲内
で使用してください。



接地面の長さが
8~10cmくらいが適当です

《空気圧の簡易測定のしかた》

自転車に乗車した状態での接地面の長さで空気圧を
判定してください。

内装変速機の使いかた

◆ 内装変速機は「坂道」や「風向き」などの走行条件の変化に応じてギヤ比を変え、ペダリングの速度と重さを一定にして、疲れを少なくすることができます。

《操作方法》

こういうときは	こう(操作)してください	
発進前、上り坂、向い風などペダルの回転が重いとき 	シフトダウン 3→2→1	<p>シフトレバーを前へ回す。 ペダルの回転が軽くなります。 ちょうどいい重さのギヤを選んでください。</p>
下り坂やペダルの回転が速く、軽すぎるととき 	シフトアップ 1→2→3	<p>シフトレバーを後ろへ回す。 ペダルの回転が重くなります。 ちょうどいい重さのギヤを選んでください。</p>

※実際と形状は異なる場合があります。

△ 注意：シフトチェンジは、坂道の手前で早目に操作してください。

○ 禁止：交差点や踏切など踏みだし時はチェンジしないでください。チェンジミスが起き、ふらついて転倒したり、変速機が故障してしまいます。

○ 禁止：急な上り坂や下り坂では自転車から降りて押してください。ふらついたりスピードが出すぎて危険です。

△ 注意：内装変速機装着車は、必ずペダリング(正回転)を止めて1段づつシフトレバーを操作してください。
チェーンが外れたり、ペダルと足の回転が合わずに転倒するおそれがあります。

お手入れと保管

【お手入れのしかた】

乾いた布やブラシでホコリや汚れをよく落としてからお手入れしてください。汚れがひどいときは水洗いしてよく乾かしてください。

警 告

注油禁止箇所



注油禁止

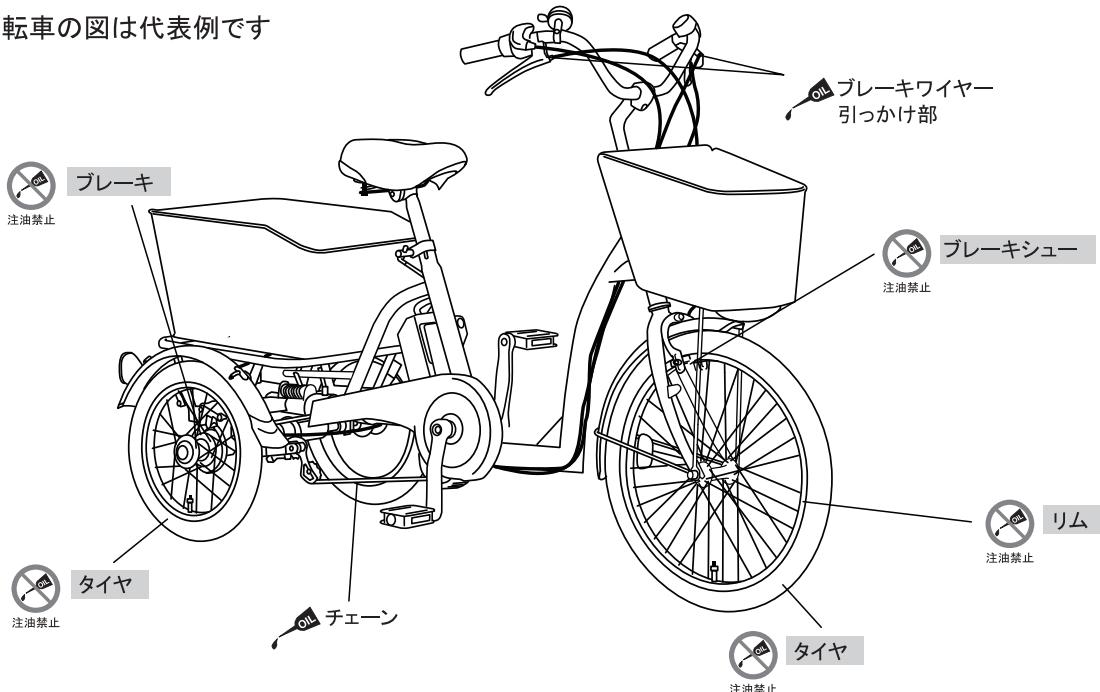
この記号の箇所には絶対に「油」や「グリス」をつけてください。

注 油 箇 所



この記号の箇所に注油してください。(1~2ヶ月に1回程度)

※自転車の図は代表例です



- 塗装部は、「メタリック用ワックス」をご使用ください。

△ 注意：絶対にタイヤにワックスをつけてください。タイヤにひび割れが生じます。

- メッキ・ステンレス部は、「サビ止め油」や「機械油」を少しづくませた布でふいてください。

- 海岸、湿気の多いところ、工場地帯、便所や浄化槽の近くなどサビやすいところにおくときは、お手入れの回数を多くしてください。

【保管するときは】

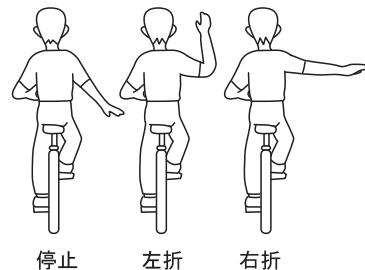
- 盗難防止のため必ずカギをかけて保管してください。
- 雨のかからない乾燥した場所に保管してください。屋外に保管される場合にはサイクルカバー やビニールシートを使用してください。
- 前輪錠のスペアキーのお取扱いはしていません。キーはなくさないようにしてください。

交通ルール

【交通ルールを守りましょう】

1. 自転車の正しい乗り方

- 発進するときは、見通しのきく道路の左側で、後方と前方の安全を確かめる。
- 右折、左折するときは、早めに合図する。
- 停止するときは、安全を確かめて停止の合図を行い、道路の左側に沿って停止し、左側に降りる。



2. 自転車の通るところ

- 車道を通過するときは、車道の左側に沿って通行する。
- 自転車は路側帯を通過することができますが、歩行者の通行に大きな妨げになるところや、白二本線の標示のあるところは通れません。
- 自転車歩道通行可の標識のある歩道は、つぎの方法により通行することができます。
- 歩道の車道寄りの部分を徐行する。
- 歩行者の通行を妨げるおそれのある場合は、一時停止する。
- 自転車道のあるところでは、自転車道を通過する。
- 道路を横断するとき、近くに自転車横断帯があれば、自転車横断帯を通る。
自転車横断帯がなく近くに横断歩道があるときは、自転車を押して横断歩道をわたる。



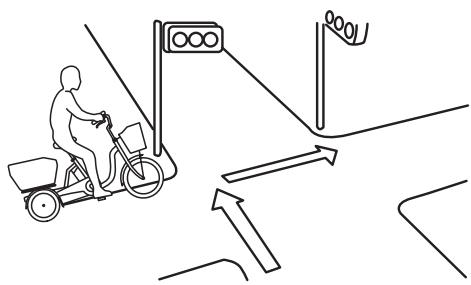
3. 自転車が通行できる歩道、路側帯を通過するときの注意

- 歩行者の通行を妨げない。
- こども、身体の不自由な人が歩いているときは、一時停止か、十分速度を落とす。

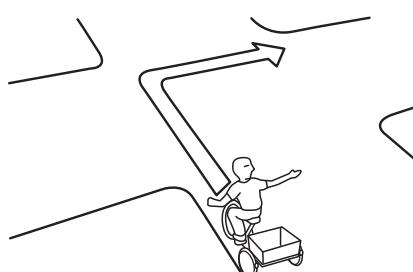
4. 交差点の通り方

●右折の方法

信号などや交通整理が行われているところ



信号がなく交通整理が行われていないところ



- 自転車横断帯があるときは、その自転車横断帯を通る。

- 自転車進入禁止標識のある交差点では、左側の歩道に乗り入れて自転車横断帯を通る。

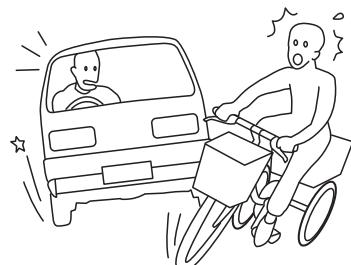
5. 自転車を駐車するときの注意

- 自転車を駐車するときは、歩行者や車の通行の妨げにならないように注意し、必ずカギをかける。
自転車駐車場がある場合にはそこに置く。



6. 走行中の注意

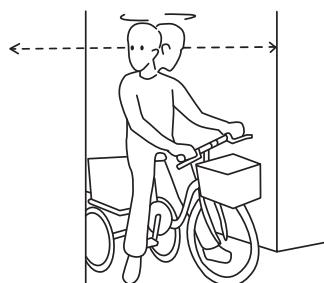
- 自動車のすぐうしろに続いたり、それにつかまって走らない。
- 自動車が渋滞しているときは、その前に割り込んだり、車の間をぬって前へ出ない。



- 他の自転車と並んで走ったり、ジグザグ運転をしたり、競争をしない。



- 横断、転回する場合は、自転車横断帯か横断歩道をわたる。これらがないところでは見通しのきくところで車のとぎれたときにわたる。



- 止まっている自動車のそばを通過するときは、急にドアが開いたり、かげから歩行者がとび出したりするので注意する。



- 交差点近くでは、左折自動車に巻き込まれないよう注意する。

- 一時停止の標識のあるところや狭い道から広い道へ出るときは、一時停止して安全を確認する。



- 自転車に乗るときは、運転者から見やすいように明るい目だつ色の衣服を着る。



- 路面が凍結や工事中の鉄板ですべりやすいところや、風雨・雪の強いとき、視界が悪いときは、自転車を押して歩く。

- 曲がりかどや障害物で見通しの悪いところでは、スピードを落として注意して通る。

- 酒を飲んだときや疲れが激しいときは乗らない。

- 走りながら携帯電話をかけたり操作しない。



●点検・調整チェックリスト(点検時期外でも異常を感じた場合、点検・調整をお受け下さい。)

点検項目	初回		1年ごと		1年ごと		1年ごと		1年ごと	
	点検	調整								
1 大きさは乗り手の体格に合っているか										
●サドルは今までがって、足が地にとどくか、またサドルの固定は確実か										
2 ●ハンドルの高さは適当か、また固定は確実か										
●乗る人の上体が少し前に傾くように、サドルの前後の位置が調整されているか										
3 フレーム・前ホークに変形や亀裂などはないか										
4 ヘッド・ハンガー・小物にガタ・摩耗はないか										
5 ドロヨケはしっかりと取付けであるか										
6 キヤリア(荷台)は片寄っていないか、またしつかり取付けてあるか										
7 タイヤの空気のはいり具合は適正か、タイヤはすり減っていないか										
8 ペダルとクラシクは直角になつているか										
9 クランクに曲がりはないか、ギヤクラシクはなめらかに回転し、ガタはないか										
10 ペダルはなめらかに回転するか										
11 車輪の振れ・スポーツのゆるみ・軸部のがたはないか										
12 ブレーキゴム類、シュー・パット・ラインシングなどすり減っていないか										
13 レバー間隔は正常で前後のブレーキはよく効くか										
14 チェーンのたるみ、張りは適正か										
15 発電ランプは点灯するか、ネジはゆるんでいないか										
16 リフレクターはこわれていないか、よこれていないか										
17 ベルはよく鳴るか、ゆるんでいないか										
18 錠の取り付けと機能はよいか										
19 キヤチエンジは正確に作動するか、またチェーンがはずれないか										
20 フリーホイールの回転と注油はよいか										
21 チェーンケースの形状と取付けはよいか										
定期点検・調整を実施した販売店ならびに年月日	年 月 日	印								

●点検・整備のお願い

■お買い求め後100km到達時または、2ヶ月以内に第一回目を、「第2回目」はその後1年ごとに実施して下さい。なお、点検・整備はお早めに依頼されることをおすすめします。(有料)
■異常を感じた場合上記の点検を実施し、修理してください。

お問い合わせ先

お客様相談室

修理、お取り扱い、お手入れなどのご相談は、まず、
お買い上げの販売店へお申し付け下さい。

◎ 弊社製品は厳格な検査を経て納入致しておりますが、万一不具合な点がございましたら
お買い上げの販売店又は弊社相談室にお問い合わせ下さい。



0120-39-2824

フリーダイヤル：月～金 9時～12時、13時～17時
土、日、祭日、年末、年始等は除く

France Bed